

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果と今後の対策

令和4年 9月 市川三郷町立三珠中学校

本年度実施しました、「全国学力・学習状況調査」の本校の結果と今後の対策についてまとめましたので、保護者の皆様に御報告いたします。

本調査は毎年マスコミ等にも取り上げられておりますが、あくまでも生徒一人一人の学力向上のために活用するものです。本調査の結果を踏まえて、本校生徒の学力がさらに向上するよう、指導法の工夫や授業改善等に組織的・計画的に取り組んでいく所存です。今後とも本校教育に御理解と御協力をお願いいたします。

1 調査目的

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、その成果と課題を明らかにするとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。

2 対象学年

- 国・公・私立学校の中学校3年生の全生徒

3 実施期日

- 令和4年4月19日(火)

4 調査内容

- ①教科に関する調査(国語・数学・理科の学力調査)
 - ・各教科において、身につけておくべき内容や実生活において活用できることが望ましい知識, 技能
 - ・知識, 技能を実生活に活用する力や, 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価, 改善する力
- ②質問紙調査(学習状況調査)
 - ・学習意欲, 学習方法, 自己有用感, 学習環境, 生活の諸側面等に関する質問

5 本校の学力調査の結果と今後の対策について

(1) 結果

教科	国語	数学	理科
全国との比較	やや上回る	同等	やや上回る

*上記「全国との比較」は、総質問に対する正答率の平均について、下の基準により記述

かなり上回る	10ポイント以上, 上回っている場合
やや上回る	5ポイント以上~10ポイント未満上回っている場合
同等	±5ポイント内にある場合
やや下回る	5ポイント以上~10ポイント未満下回っている場合
かなり下回る	10ポイント以上, 下回っている場合

(2) 各教科ごとの分析と今後の改善のための取り組み

教科	分析と取り組み
	国語【分析】
【分析】	①漢字の読み書きや, 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す設問の正答率が高く, 基本的な言葉の力が身につけていると考えられる。

【取組】	<p>②「書くこと」領域の正答率が低く、文章を書く設問7は、「注意する点」として示された4つの条件の正答率が 31.3 %～ 43.8 %にとどまっている。無解答者が10人で、最後の問題だったため時間がなくなり書けなかった可能性もある。</p> <p>③全問中最も正答率が低かった選択問題（友達のスピーチへの助言の内容を選ぶ）は、文章や資料をよく読めば難しい問題ではない。テキストから手がかりを見つけ、解答を導き出す力をつけたい。</p> <p>①今後も授業の中で基礎・基本の学習を丁寧に継続する。</p> <p>②指示された条件に当てはまるように文章を書くこと、時間配分を工夫し問題を最後までやり終えられるようにすることを、入試も意識しながら指導していく必要がある。</p> <p>③テキストをしっかりと読み込み、適切に情報を得る指導を充実させていきたい。</p>
数 学	
【分析】	<p>①下位3題以外はすべて全国を上回っており、平均以上の力のある学年である。</p> <p>②図形の単元の基本的知識を問う問題は正答率が高く、よく定着している。</p> <p>③下位の結果になった問題は新学習指導要領で移行され問題が多かった。</p> <p>④図形の証明問題の正答率が 16.1（全国は 12.5）と低いものがあった。</p>
【取組】	<p>①新学習指導要領で移行された単元、内容について指導方法をさらに研究、工夫する必要がある。</p> <p>②図形の証明に関する課題については、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する指導を丁寧に行う必要がある。</p>
理 科	
【分析】	<p>①県や全国よりも正答率が高く、1問のみ下回っただけであった。無回答率も低く、全体的に安定した力がある。</p> <p>②正答率で見ると、地球を柱とする領域（地学分野）の正答率が低い。県や全国も高くないが、天気や地層など身近ではあっても、自分事として捉えきれていないと考える。</p> <p>③粒子領域（化学分野）、生命領域（生物分野）では比較的高い正答率であった。脊椎動物や節足動物など身近で観察実験できたもの、化学分野で実験を通して学んだものについては学習の定着がみられた。</p> <p>④全体的に見ると良い結果だが、正答率が 1/3 以下の生徒も複数いるので全体の底上げができる指導を心がけていきたい。</p>
【取組】	<p>①今後も継続して基礎や原理をしっかりと理解し、身に付けられるように指導していく必要がある。</p> <p>②生徒が身近に学習したことを感じられるとより定着するので、実験等の工夫をしていく必要がある。</p>

6 学習状況(質問紙)について

質問紙調査では、多くの質問が下のような回答を選ぶ方式になっています。

- | | |
|----------|----------------------------------|
| ◇ 肯定的回答： | 「1 よくしている（よくあてはまる）」 |
| | 「2 どちらかといえばしている（どちらかといえば、当てはまる）」 |
| ◆ 否定的回答： | 「3 あまりしていない（どちらかといえば、当てはまらない）」 |
| | 「4 全くしていない（当てはまらない）」 |

以上から「肯定的な回答」、「肯定的でない回答」という見方で分析を行いました。

(1) 結果

1 生活習慣、規範意識、自己有用感、地域とのつながり等に関する質問

【概況】

肯定的回答かそうでないか、を知る質問項目が40程ある中で、肯定的な回答率が全国を上回っているものが8割を超えている。肯定的評価の割合が全国より10%以上高かったのが、15項目あり、特に高かった項目として、

- ・「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」(全国比+34)
 - ・「今住んでいる地域の行事に参加している」(全国比+18)
 - ・「自分の考えを発表する機会が、うまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した」(全国比+17)
 - ・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」(全国比+17)
- 等が挙げられます。

【内容別の様子】 ○～肯定的回答が全国より上 ▼～肯定的回答が全国より下

(1)生活習慣・学習習慣・学校生活

○「毎日朝食を食べる」「同じ時刻に寝起きする」「計画的に学習している」「学校は楽しい」

▼「スマートフォンなどの使い方について約束を守っている」

(2)自己肯定感・有用感・自己管理

○「自分に良いところがある」「先生はよいところを認めてくれる」「将来の夢や希望がある」「決めたことをやり遂げる」「難しいことに挑戦する」

(3)規範意識

○「困っている人を助ける」「いじめは、どんな理由でもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」

(4)他者との協働

○「自分と異なる意見について考えるのは楽しい」

▼「友達と協力するのは楽しい」

(5)本や新聞との関わり

○「新聞を読んでいる」「読書は好き」

(6)自然や地域との関わり

○「自然観察をすることがある」「地域の大人に教えてもらったり遊んでもらったりすることがある」「地域の行事に参加している」「地域や社会をよくするために考えることがある」

(7)ICT機器の活用

○「PC・タブレットは勉強の役に立つ」

▼「調べる場面でPC・タブレットを使用する割合」「考えをまとめ発表する場面でPC・タブレットを使用する割合」

(8)多様な学びの展開

○「課題解決に向け、主体的に取り組んだ」「学んだことをいかし、自分の考えをまとめた」「自分の思いや考えをもとに作品や作文などの創作を行った」「自分にあった教え方、教材、学習時間となっていた」

▼「話し合い活動を通じ、考えを深めたり広げたりすることができた」「総合的な学習の時間で自分で情報を集め整理し、調べたことを発表する学習活動に取り組んだ」

2 調査した教科(国語・数学・理科)に関する質問

【概況】21の質問のうち肯定的回答率が全国より高かったのは19項目で、生徒は3つの教科すべてに意欲を持って前向きに学習に臨む姿勢が見られました。

(1)国語

4つの質問の内、「国語の勉強は好きか」のみ全国より下回っていました。

(2)数学

7つの質問項目で、「学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思うか」のみ

下回りましたが、上回った質問で全国比10ポイント以上の質問が4項目ありました。
(3)理科
9の質問項目すべて全国より上回り、すべてが全国比10ポイント以上となっています。

(2) 考察(学校グランドデザインと関連付けて)

○確かな学力

- ・今回調査を行った3つの教科の回答から、どの教科に対しても意欲的に前向きに取り組んでいる様子がうかがえます。
- ・学習に対し前向きな気持ちで取り組んでいるが、教科によっては「好きではない」と考えたり、現実の生活に結びつかないと感じている様子がうかがえます。
- ・ICT機器の活用については、平均的な数値となっていて、まだまだ効果的な活用ができていないと考えます。

○ゆたかな心

- ・全国と比較して、自己肯定感、有用感をも生徒の割合が多い。行事や生徒会活動など、様々な活動を通して生徒が活躍できる場面があることもその理由と考えます。
- ・多くの生徒が、好ましい規範意識をもって学校生活を送っている様子がうかがえます。
- ・読書や新聞に親しむことは全国より平均は高いが、数値自体は高くない様子があります。

○健康安全

- ・基本的な生活習慣については、概ね良好といえます。スマートフォンやネットの利用など、ルールを守ることに課題があることが結果として出ていますが、本校で行ったネット使用に関する調査からも課題がいくつか見られます。

○地域との関わり

- ・自然や地域との関わりについて肯定的回答率が大きいのは、本町が豊かな自然に恵まれ、地域とのつながりが深く残っている環境によるところが大きいと考えます。そのような、地域の力を引き続き学校の教育活動に活かしていきたいと考えます。

7 今後に向けて

○確かな学力

- ・生徒が主体的に学習に臨めるよう、すべての教科において、生徒が自分事として学びをとらえ、自分や自分の生活などに関連づけながら学べる授業づくりを進めていきます。
- ・ICT機器の活用については、より効果的な活動ができるよう、タブレット端末を各教科で活用する場面を増やし、更に個別で最適化した学び、協働的な学びが進められるよう、職員で研究を進めていきたいと考えます。
- ・家庭学習の習慣化について、調査結果から大きな課題はありませんが、常に学び続ける態度を育てることを目標に、学校で進めている家庭学習ノートの質を高めたり、学校で学んだことを帰ってから確かめたくくなるような授業づくりを行っていきたいと考えます。

○ゆたかな心

- ・今後も行事や生徒会活動など、様々な活動を通して生徒が活躍できる場面を創出し、生徒の自己有用観、自己肯定感を高めていきたいと考えます。
- ・道徳、特別活動、あらゆる場面での指導を通して、生徒の規範意識を育てていきます。
- ・読書や新聞により親しむことが出来るよう、今後は新聞を活用したNIEの学習などに取り組みなど、より「読むこと」「読んで考える活動」を進めていきたいと考えます。

○健康安全

- ・スマートフォンやネットの利用については、今後も情報リテラシーや、ネット依存、トラブル等について学ぶ機会を設けていきたいと思います。

○地域との関わり

- ・自然が豊かで地域との関わりが強い、という本校の強みを活かし、今後は「みさと学」や平成5年度以降に設置される「地域学校協働本部」と連携したり活かしたりしながら、地域資源、地域人材を活用した教育活動を展開していきたいと思います。